

乳幼児期に自然の中ですごすこと。
あそびの世界にたっぷり入り込むこと。

晴れの日はおひさまの光を浴びて、雨の日には雨粒を体感じて、季節の風に吹かれながら、
たくさんの命に触れること。自分の中から湧き上がる気持ちをしっかり感じること。
心も体もたっぷり動かし、心と体の土台を作るための大切な経験がその時間にはたくさんあります。
言葉にするには難しいその時間こそが、こどもたちの命をさらに輝かせていくことでしょう。
そんな時間をこどもに関わっている方も関わっていない方も、ひとりでも多くの方に知って、
考えていただきたく、この会を開催します。よりよいこどもたちの時間を一緒に考えましょう。



参加費

全参加が
お得です

全参加 8,000 円

1日目 5,000 円

懇親会 2,000 円

2日目 2,000 円

対象

幼児期の自然体験・野外保育
森のようちえんに興味関心のある方どなたでも

定員

各日 100 名 ※定員になり次第、締切
5月10日(金)受付開始

申込み

HP 申込フォームより
お申込みください ⇨



託児について

1歳～就学前のお子さんの託児をご用意しています。
詳細はホームページをご覧ください。※先着順・要事前申込

主催

こどもと森とみんなの未来
実行委員会

MAIL: info.kmmm@gmail.com
電話:022-702-5684 (森のようちえん虹の森内)

この事業は、公益信託オオバまちづくり基金の助成を受けて実施しています。



2019/6/29・30

sat

sun

会場

エル・パーク仙台

〒980-8555 仙台市青葉区一番町 4-11-1 141ビル
(仙台三越定禅寺通り館) 5・6階

6/29 sat

10:00 オープニングトーク
10:20 参加者交流

10:45 基調講演
自然の力を借りて、
自然に育む子どもたち

乳幼児期に培われた力は生涯なくなることはありません。言い換えれば、乳幼児期に何を体験するかで、子ども達の心の土台や力が作られるということです。自然の中での子ども達は、様々な体験を通して、自然と自分自身を発見して過ごしています。それは子ども達一人一人違い、私たち大人が期待していない体験や発見もあります。人工的な環境とは違う質の体験が、自然環境にはあると感じています。環境構成だけでなく、大人の存在そのものが子ども達の体験の質に大きく影響しています。乳幼児期の保育・教育で私たちが大切にしたいことはなんですか？その大人の想いが大切です。乳幼児教育としての自然体験や今の時代に必要とされる大人の視点などをお話させていただきます。



講師 野村直子氏 (New education Little Tree)

new education LittleTree 主宰。NPO 法人森のようちえん全国ネットワーク運営理事。国内外での保育と自然体験活動などの経験を重ね約 20 年。現在は保育園園長の経験を生かし、新規保育園の立ち上げや、国内外の保育・幼稚園研修や講演などをメインに活動中。活動を通して新しい保育・教育の視点を提案し、保育の質を伝えている。

12:15 お昼休み

6/30 sun

9:30 特別講演
『山の遊び舎はらべこ』
の子どもたちの日々

自然との関わりの中で子どもたちはどんな育ちを体験していくのか。私たちは子どもたちをどう支え、共に暮らしていくのか。共同保育の森のようちえんからみえてくる風景をご紹介します。

『山の遊び舎はらべこ』とは
「自然の中でのびのびと子どもたちを育みたい」との母親たちの願いにより、保育士、保護者、地域が一体となって子どもの育ちを見守り、一緒に楽しみ、共に喜びを分かち合う場として、長野県伊那市にてスタート。活動は「自然との関わりを中心とした生活」と「自主保育として母親と父親が運営している」という 2 つの特徴がある。信州もほまほま(信州型自然保育認定制度)特化型認定園。

2日間のふり返りと
意見交換の時間です。
隔の力を抜き、「これから」について
じっくりばらんに話しましょう。



講師
小林成親氏 (NPO 法人山の遊び舎はらべこ)

長野県のお小さな山里の公立保育園に 14 年間勤務したのち、知り合った母親たちとともに 2005 年に「山の遊び舎はらべこ」を立ち上げる。現在 15 年目。

11:15 振り返り

12:15 クロージング
12:30 2日目終了

13:30 分科会 A
4つの中から1つご参加頂きます

A-1 やってみたいを形にしていこう自主保育
~子どもとおとなの輝く時間~

「てづくりようちえんあおぞら」は、2014 年に 4 歳児 2 名 2 家族で週 4 日程度の活動を開始。西公園プレーパークや広瀬川、青葉山、そして畑などの場所や活動、親と保育協力者が活動を支えてきました。自主保育はその子どもの関心と育ちを待つ時間。親がその意欲のなかで、育つ時間でもあります。四季の自然のなかで、多様な人間の関係性のなかで、子ども自身が遊びを通して、自分と出会い成長していく。風の日、雨の日、晴れの日の子どもの姿。自主保育で 6 歳まで一緒に活動してきてよかったこと、小学校にいったらからのこと、気になるアレコレを伝えます。



佐々木啓子氏 てづくりようちえんあおぞら/
西公園プレーパークの会
仙台市生まれ。仙台市在住。3 児の母。保育士から、遊びの主体が子どもにある「冒険遊び場(プレーパーク)づくり」にどっぷりはまり 16 年目。子どもを預け合い、親が自主保育しながらつくる「てづくりようちえんあおぞら」を楽しんで 5 年目となる。

A-2 親子で育つ
週末型森のようちえんのススメ

栗駒山中麓にあるくりこま高原自然学校では、週末日帰り、もしくは一泊 2 日の親子参加の森のようちえんを実施しています。活動の考え方として、「は(刈)ひ(火)ふ(歩)へ(平朝)ほ(ぬ)い(を)を(機)機、年齢を重ねた時、自分と歩み出すには自分の中に心の安全地を持っていることや親子関係も関わってきます。子どもたちの生きる力を育み、親が親になっていく場とは、実際にどんな風にあそんで過ごしているかに加え、活動の理念、プログラム作りの考え方やコツなど、今までの指導の経験と子育ての経験もあわせてお伝えします。



原原俊也氏 くりこま高原自然学校
栗駒山城及び北上川流域にて、こどもから大人を対象に、週末型森のようちえんや冒険キャンプ、エコツアーなど自然体験活動の企画・運営・指導にあたる。栗駒山中の精華地区で暮らす。6 歳、3 歳、2 歳の三兄弟の父。

A-3 やろっこひなっこの 3 年間

やろっこひなっこのは、2016 年 4 月に始まった外あそび親子サークルです。週 3 日、宮城県南の鹿田町・大河原町などの自然をフィールドに、未就園の子どもたちと母で過ごす親子の時間。季節ならではの行事や食べ物を楽しむ日も、子どもたちには「やりたい!」気持ちを大切に、思いやり仲間と遊んで、時にはぶつかってけんかして、そこから考えられる子どもになってほしい。母たちは、そんな子どもたちを信じて見守りたいと考えています。四季折々をどんな風にしていくのか、よりよい場にするように変化している運営方法や、放射能対策についてもお話しします。



高祖知陽氏・榎本結子氏 外あそび親子サークル
やろっこひなっこ
高祖知陽氏:
5才&3才の姉の母。外食・食べること、みんなでワイワイするの大好き。1年目は仲間、2年目からは運営メンバー。
榎本結子氏:
6才&3才&0才の三兄弟の母。横浜市出身。鹿野系の出版社で元々働く、奥書の好きな好き。立ち上げメンバー。

A-4 森のようちえん虹の森の
はじめとこれから

2013 年に本格的に活動開始。多賀城跡や泉ヶ岳などをフィールドに、平日は親子の時間、休日は子どもだけの時間を作りながら、毎日森に通う形のようちえんを目指して活動してきました(現在開園中!)。それぞれのクラスで大切にしたいこと、活動の経緯や目指す形など、虹の森について、ざっくりとお話しします。また、本会の開催の経緯やそこに込める思い、知りうる限りの宮城県内の仲間たちのこと、全国の先輩のこともお伝えします。宮城県における野外保育や外あそびのこれからについても考える場にとできたらと思います。



清水冬音氏 森のようちえん虹の森
学生時代に森のようちえんに出会い、2012 年春、虹の森の立ち上げ陣に就任。2016 年現在に独立。本会の言い出しっぺであり実行委員長です。

15:30 分科会 B
4つの中から1つご参加頂きます

B-1 日常型の森のようちえんの実践例

千葉県南房総市で 9 年前に任意団体「森のようちえんはっぴー」を立ち上げました。当初は地元の子育て情報もよく知らず、全てが手探り状態でした。5 年後には関わる人たちに助けられ、一般社団法人となりました。運営は順風満帆とは行きませんが、子どもたちや自然から力をいただけるがら一歩一歩進んでいます。有資格者が行う野外保育のこと、運営のことなどを、ご紹介いたします。



沼倉幸子氏 一般社団法人森のようちえんはっぴー
私立幼稚園に 11 年勤務。一旦は保育の世界から離れたが、もう一度子どもの世界に戻りたいと考え始めた頃、森のようちえんの存在を知り、それまでの保育の世界観がひっくり返った。保育者主催の森のようちえんを運営。

B-2 “すぐ隣の自然”の中で育つ子どもたち
~都市型自然学校ができること~

「都市で“自然体験”!」一見すると矛盾なキーワード。しかし指導者(保育者)側の「思い・考え・やり方・関わり方」次第で、ここでの活動は、子どもたちの人格形成の礎となり、成長してからの、ひとつの心の拠り所となります。子どもたちのすぐ隣の自然の中で育まれる、「想像力と創造力」、「気づきと驚き」、そして、「日常の中での非日常体験がもたらす効果」がそこにはあります。「自然学校」の活動内容も書め、「都市部での「森のようちえん」の創成期から成長期(この真っ只中)、その他アレコレとともに、「大自然!心豊かな公園・自然」とは限らない!」をお伝えします。



坂口友紀子氏 NPO 法人国際自然学校
学生時代の自転車での旅から、自然の偉大さや偉大さを感じ、仲間がいるからこそできる自己実現があることを知る。また調和のとれた社会や和を重んじた人間関係の構築には自然学校は欠かせないという思いから現職に就く。

B-3 子どもから始める町づくり!
~認定こども園めぐたまの取り組み~

山形県金山町は人口 5,500 人の小さな町です。この町で唯一の保育施設が認定こども園めぐたまです。園の方針は「環境教育」「幼児教育」「食農教育」の 3 本柱。四季折々の変化の中で子ども達も夢中になって遊び込む「フーリ状態」や土づくりから始まる畑の仕事をそこから得られる食卓「身土不二」など、元々この金山に広がる豊かな自然や伝統文化を活かす保育を目指しています。また、豊かな実体験ばかりでなく暮らしのものを子どもや大人が話し合い自らの手で作り上げていく、民主的なプロセスを大切にしています。こんな我々のこれまでとこれから取り組みをご紹介します。



井上亘氏 認定こども園めぐたま
1963 年千葉県生まれ。大学卒業後、一般企業に就職。1994 年山形県金山町に移住。2011 年認定こども園めぐたま園長となり、現在はこども園、子育て支援センター、学童保育、放課後等デイサービス等を行う社会福祉法人めぐたまの本部長。

B-4 子育てのカタチ
~はらべこの暮らしが創り出すもの~

南信州伊那市にある「山の遊び舎はらべこ」は、野外保育と自主保育を二本柱とした認可外保育施設です。設立 15 年目の今、幼児教育の無償化問題によって小さなはらべこは大きく揺れています。この一年、保護者全員で振り返り、はらべこが大切にしたいことを確認してきました。母親(特に父親も)保育士と共に保育の現場に入り切望する子どもたちを支える「保育当番」のスタイルが、おとなの姿も変えてきたこと、毎年入れ替わる保護者が園を運営していること、そして、この先のはらべこの立ち位置は? など、社会的役割をどうのよう運営するのかが、今宵の真っ只中になっています。汗と笑い涙の毎日を運営者としての保護者目線からしたいと思います。



久保裕美氏・ラビントン長子氏 NPO 法人
山の遊び舎はらべこ
久保裕美氏:
高 1 小、年少の 3 人の母。全員はらべこで育つ。今年度保護者代表。外国籍児童生徒の支援に携わる。
ラビントン長子氏:
小 4 小 1 の息子をもつ母。昨年度保護者代表。4 月より新米看護師として児童精神科病棟に勤務中。

17:30 懇親会
19:30 1日目終了